

子どもの耳垢とりはやめましょう

2017.06.05

先月は季節外れのRSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症、インフルエンザB型、さらに6月に入って咽頭結膜熱の流行と、子どもたちは安心できない日々が続いています。

皆さん、お子さんの耳垢とりはどうしてますか？小児科の診察場面では、発熱していると鼓膜に発赤がないかどうかは確認が必要な項目になっています。よく見えるお子さんが多いですが、中には耳垢が詰まっているお子さんもいて、どうしたらいいでしょうと聞かれることが多々あります。

アメリカの耳鼻科学会は今年の1月に耳垢とりはしないようにと再度警告を市民向けに発表しています。耳垢には、耳の中を適度に湿らせたりやほこりが中に入るのを止め、耳の中の自浄作用もあるとのことで、必要な人は耳鼻科で取ってもらいなさいということです。

発表の主な内容は、耳掃除をやりすぎないこと。綿棒のような細いものを耳の中に入れて掃除をしないこと。耳が聞こえないなどの症状がある場合は耳垢以外が原因となることが多いので、医師に診てもらおうこと。大体の人は耳掃除自体が不要とのこと。

肘より小さいものを耳に入れるなど英語にはこんなことわざもあるようですが、日本では、綿棒とか耳垢取りをネットで検索するとこれでもかかっていろいろな道具や綿棒の種類が出てきますね。外国の綿棒にはこれは耳の外側をやさしく掃除するもので、耳の中を掃除するものではないと書いてあるそうです。

とはいっても、耳掃除ってやりたい衝動にかられます。私自身も耳掃除が習慣化してしまっているので、反省すること多々です。

皆さんもこれをきっかけにして、耳垢とりはやめましょう。取りすぎて外耳道を痛めるとかえって耳垢が詰まることがあります。それでもどうしてもというときは、綿棒の頭くらいにしましょうね。それ以上綿棒はいれないようにしましょう。